

公益社団法人 日本図書館協会 図書館情報学教育部会

会 報 第114号

2016（平成28）年6月22日発行 編集・発行 図書館情報学教育部会

目 次

2015年度 第2回研究集会報告（2016年3月6日（日）開催）

テーマ：図書館情報学教育を活性化させる実物・映像を中心とした教材（シリーズ：図書館情報学教育におけるFD）

基調講演「電子教材に含まれる著作物への配慮」

（吉田素文 九州大学大学院医学研究院医学教育学教授・

同大学附属図書館副館長、同館付設教材開発センター協力教員）……………1

事例報告「教員一年目の教材活用 ー魅力ある授業にするための試行錯誤ー」

（矢崎美香 九州女子大学人間科学部准教授）……………3

ワークショップの概要……………6

参加者の感想「教材体験と実践報告が参加者を活性化する」（庄ゆかり 広島文教女子大学）……………8

参加者のアンケートから……………8

学校図書館職員問題検討会報告書（案）への意見募集について……………9

2015年度 第2回研究集会報告

大学の授業時に使用される補助教材は、教育の質を改善するうえで重要な要素である。今回の研究集会では、図書館情報専門職を養成する教育において、さまざまな文脈における（オンライン動画や絵本などを含む）ビジュアルな教材を持ち寄って紹介し合い、授業改善に資するアイデアを参加者に持ち帰ってもらうことを目的とした。

[基調講演]

電子教材に含まれる著作物への配慮

吉田素文

（九州大学大学院医学研究院医学教育学教授・

同大学附属図書館副館長、同館付設教材開発

センター協力教員）

大学の授業の進め方や教材は多様化している。その一端として、パーソナルコンピュータで教員が作成した電子教材を、教室内のスクリーンに投影し、それを学生が視聴する形式が浸透している。さらにインターネットやモバイル端末などの

情報通信技術の普及により、教員が学生に学内の学習管理システム等を介して配布することで、学生はまだ教科書に載っていない最新の知識を学んだり、精細な画像や動画などを手で閲覧したり、双方向型の教材で学ぶことができるようになっていく。

教材の作成や共有は従来に比べてはるかに簡便になったが、その一方で、教員や学生が作成・利用する電子・オンライン教材に「他人の著作物」が含まれる場合、①紙の複写物を教材とし教室内で配布するときの慣習、②学習に役立つという視点や、オンラインでの使用における教材の効果や効率性の追求、③現在の著作権法や権利者が公開しているガイド

ライン等の記述との間で、作成者本人や関係者が悩んだり心配したりすることがある。

考えてみると、我々大学教員は、最新で正確な学術情報を、学生にわかり易く、記憶に残るように伝えることを心がけて、教材を作成する。同時に時間や労力、経費を最小化することを心がける。しかし、この心がけが、社会倫理、即ち著作権法や出版社等著作権者が公表しているガイドライン等への配慮との間で相反 (conflict) を生じているのではないだろうか。さらに、原著者と教材作成者が同じ学術コミュニティに所属しているという我々大学教員の状況は、広く社会一般に向けて制定された著作権法の想定外であろう。

これらの教員の悩みを解決するための取組として、九州大学附属図書館は、教材に含まれる他人の著作物の取り扱いにかかる学内講習会を2010年に初めて開催した。この講習会は、2011年4月に設置された附属図書館付設教材開発センターに引き継がれ、「電子教材著作権講習会」として、定期的で開催されている。その最新版のテキスト「大学教育における他人の著作物を含む電子・オンライン教材の作成と利用に関するQ&A」を機関リポジトリに掲載している。その内容を以下に示す。

1. 他人の作った図や画像などを許諾なしに教材に利用しているが？
2. 他人の著作物とは何か？
3. 海外の著作物を日本で教材として利用する場合やその逆の場合はどう考えればよいか？
4. 大学などの教育機関での利用でも事前の許諾が必要か？
5. ウェブ上に公開された動画を授業で利用できるか？
6. 著作権者から許諾を得る具体的方法は？
7. 英文学術雑誌に掲載された図表等を教材として使う場合、許諾はどのように取得するか？
8. 他人の著作物を含む教材をウェブサイトで配布するには？
9. 他人の著作物の図や表に手を加えて使用してよいか？
10. 出所はどのように明示すればよいか？
11. 引用の範囲内であれば、翻訳して使用してよいか？
12. 録画した講義を公開するための著作権処理はどうすればよいか？

これらの問いに対する回答は、QRコードから上記講習会

テキストをダウンロードして、ぜひご活用いただきたい。しかし同時に、あらかじめ以下のようなお断りしておきたい。過去の講習会での質疑応答において、実際に大学で教員や学生が作成し利用する教材に「他人の著作物」が含まれる場合、著作権法上グレーゾーンと捉えられる事例が少なからず存在する。テキストに記述されている情報は、講習会受講者には、教材の作成と利用に関する一定の知識と安心をもたらすとの評価を得ているものの、問題を全て解決できている訳ではない、というのが実情である。



基調講演の様子

このような大学における教材の作成と活用の現状に鑑み、電子的学習資源の製作、共有化を促進し、また学習・教育において著作物を最適に利用できる環境を整備するための検討を行い、具体化することを目的とする大学学習資源コンソーシアム (Consortium for Learning Resources, 以下CLR) が2014年5月に設立された (2016年6月現在、19大学が加盟, <http://clr.jp/about/member.html>)。CLR加盟大学と国内外の学術著作物の著作権管理を行っている学術著作権協会との間で、教育活動における著作物の利用実態に関する共同調査が行われている。将来的に同協会が管理する著作物をCLRの加盟大学で自由に利用できるような包括契約が締結できることを祈念する。また、CLRでは、上記九州大学の電子教材著作権講習会テキストを基に作成された「大学学習資源における著作物の活用と著作権」を公開している (http://clr.jp/servicemenu/guideline_201604.pdf)。こちらをぜひご活用いただきたい。



吉田素文氏

(所属は登壇当時のもの)

[事例報告]

教員一年目の教材活用

— 魅力ある授業にするための試行錯誤 —

矢崎 美香

(九州女子大学人間科学部准教授)

1. はじめに

昨年度までは、九州女子大学・九州女子短期大学附属図書館、九州共立大学附属図書館と同一学園内の大学図書館において図書館員として業務に携わっていた。2012年度からは、九州女子大学人間科学部人間発達学科の図書館司書課程で非常勤講師として教壇に立つとともに、別府大学の司書講習の講師としても教えることをした。

今年度からは、九州女子大学の新任教員として、図書館司書課程の授業科目を持ち、図書館情報学の研究領域に身をおくことになった。このような教員一年目の私が、今年度授業内で思考錯誤を繰り返しながらテキスト以外の教材をどのように使い、学生の学修効果を高めたかの事例を報告する。

2. 図書館司書課程科目の授業設計

本学の人間科学部人間発達学科は、学科の下に専攻があり、人間発達学専攻と人間基礎学専攻の2専攻がある。

人間発達学専攻は、乳幼児発達コース、児童発達コース。

人間基礎学専攻は、心理学コース、国語・書道コース、図書館・情報コースと、そのそれぞれの専攻の中にさらにコースがあり、免許や資格取得に重きをおいた構成である。

図書館司書課程、学校図書館司書教諭課程の科目は、人間基礎学専攻の図書館・情報コース内において開講しているが、専攻内の卒業要件単位科目のため、資格取得希望の学生と単位のみ取得したい学生とが混在する授業となる。

今年度担当した図書館司書課程科目は、講義形式で「図書館概論」(1年 前期)、「図書館サービス概論」(2年 前期)、「図書館情報資源概論」(1年 後期)、「情報サービス論」(2年 後期)・3年 前期)、「情報資源組織演習 I/II」(3年 前・後期)である。なお、()内は、本学の科目配当年次である。

また、本研究集会においては、講義形式で行っている授業のみの事例とし、ICTを活用した演習授業の事例は省く。

各科目の受講対象者は、約20~30(資格希望者) + α (単位取得のため)名になる。このようにモチベーションに差異がある学生を対象に授業をするには工夫が必要である。

そのため、各科目においては、授業を行う前にそれぞれ授業設計を行い、テキスト以外の教材を用いることを考えた。

授業設計においては、下記の5項目を念頭に授業を行った。

- ① 学習目標を明確にする
- ② 何を教えるか
(それぞれの科目において何を教えるか設定)
- ③ どう教えるか、どうやって教えるか
(どうすれば学習者の学びを確実にできるか)
授業形式、教材活用
- ④ 魅力ある授業を作る(学習意欲の引き出し方)
実際に教材を使ってみる
- ⑤ 使った反応や効果

3. 教材活用

授業設計を基にすべての科目で取り入れた教材は、「新聞記事」、「カレントアウェアネス」、「統計、白書」などの即時性の高い情報を授業内において提供した。

また、担当した科目は、大学1~2年生と図書館情報学を学び始めた学生が多いため、その役割や機能、情報を知ることがを主とし、授業外から自発的に学ぶことができる教材を示唆するためである。

「新聞記事」は、日常生活の中で一番身近な情報入手源である。図書館に関連する記事が常に掲載されていることに関

心を持たせるために使った。また特定の主題について国立国会図書館が提供している「カレントアウェアネス」なども使用した。「統計、白書」は、テキスト内のデータが発行時に使った古いデータが多いため、最新のデータを見ることによる現在の動向を学ぶために提示している。



事例報告の様子

これらの教材は、授業内容の補足説明をする際に配布し、授業開始前の配布はしていない。しかし、授業内で資料（教材）を配布すると私語が多くなるのが気になるため、学生に情報（意見）交換を行いながら配布するように促し、興味や知識などの理解を深めるようにしている。配布後、学生には、意見交換をした内容を発表してもらい、様々な考えを共有するようにしている。

次に各科目での教材活用についての事例をあげる。最初に図書館司書課程の基礎科目、1年生の前期科目の「図書館概論」では、図書館の知識習得を目指し、図書館を活用できることを目的としている。そのため、授業外に身近な図書館に複数回見学に行く課題を与え、図書館に関するミニレポートを書かせている。その、レポートの内容を授業内の教材として用いている。もちろん個人が特定できないように情報提供をしている。

また、図書館司書資格を希望する学生に対しては、図書館見学会を行い、特色ある公共図書館を見学するようにしている。今年度は、「図書館戦争」で話題になった北九州市立中央図書館、市内では新しい施設設備が充実している北九州市立八幡西図書館、北九州市立大学の図書館が大学生対象の「専門図書室」と一般市民向けの「一般図書室」を併設して

いる北九州学術研究都市（学研都市）学術情報センター（図書館）（市の関連施設の図書館として位置づけ）の見学を行った。それぞれ特色があり、学生の印象付けには効果的で、授業内での発言を誘発するきっかけになった。

2年生の前期科目「図書館サービス概論」も「図書館概論」同様、図書館司書資格を希望する学生を対象に図書館見学会を行い、レポートの内容を授業内で活用した。この科目の見学目的は、各種別図書館のサービスについて知識を修得することである。見学先は、学生が通常利用できない専門図書館、アメリカン・センター福岡、BIZCOLIへ行った。この見学会は、想定する以上に学生の関心を集め、授業内では自ら質問をすることなどなかったが学生が、図書館長や図書館員の方に進んで質問をしている光景を見ることができた。また、この効果は授業内においても持続し、図書館のサービスにとっても関心を持つ学生が増えた。

また、同科目内では、教科書として使用しているテキストは別のテキストに掲載している絵（ワークシート）を使い、ワークシート内の絵から図書館サービスと考える項目を書き込むことをした。授業開始3回目に絵（ワークシート）に書き込んだサービスの数は4~5個程であったが、授業後半10回目に学生の絵（ワークシート）を返し、それに追記する形で書かせると、その数は8~12個と倍ぐらいに増えた。これは学生が、この科目の内容を理解し、知識を修得したことを明らかにしたと考える。

その他、同科目内では、各図書館の画像や各図書館から収集した図書館案内のパンフレット、サービスに伴う申込み用紙（コピー、相互貸借等）などの実物も教材として提示した。

1年生後期科目の「図書館情報資源概論」では、なるべく現物の教材を使うことを試みた。学生がテキスト内の情報だけで情報資源を知るのではなく、実物を見て知識を修得することを目的とした。授業内では、多種多様な情報資源（各種目録、雑誌、デイジー教材、彩飾写本（ヴェラム）、パピルス、マイクロ・フィッシュなどの実物を提示した。また、情報資源の活用方法として、毎年開催している「九州地区大学図書館合同キャンペーン Library Lover's」に参加する形で、情報資源を紹介することをした。

また、授業内で研究室（学内校舎の建て替えに伴う引っ越しに伴い箱詰め）の情報資源を種別することをを行った。授業

内では理解しているつもり知識が、実物を前にすると迷いや認識違いをしていることに学生自身が気づくことができた。自ら教科書を取り出し、知識の再確認をしている光景は、知識の習得を行うのに効果的な方法だと判断できた。

2年生後期科目の「図書館サービス論」は、担当する科目内で、司書資格を希望しない学生が半数ほど取得している。そのため、学生間の目的や学習意欲に差が大きく、内容には関心が持てない学生が多数いた。それを改善するためワークシートを多用することにした。ワークシートは、事前・事後課題も含め少量を複数回出すようにした。

また、ワークシートは、作り方次第で学生の学修効果が変わることがわかることができた。文字のみの書き込み式や表体の記入式(図1)では、取り組みに差があるとともに記入量が少なかった。しかし、ワークシートに視覚的な図(図2)を入れたり、フローチャートにしたりと工夫をすることで、意図しない書き込みを行い、自発的に必要な内容を付加する傾向がみることができた。



図1

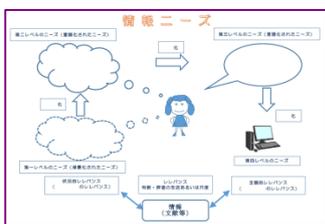


図2

4. 教材活用の効果

現在どこの大学でも同様だとは思うが、「～できるようになる。」という到達目標を設定し、授業を行っている。

今年度、試行錯誤を繰り返しながら科目ごとに学生の関心を集める方法や知識の習得の差異を埋める方法を考えてきた。その効果は、科目により違いはあるが、教材による効果を見ることができた。しかし、図書館司書資格を有する科目においては、科目内の単発な効果だけをみるのではなく、体系的にすべての科目を通し図書館司書資格を有するに値する効果を見ることができると考える。

そのために配当年次が設定してあり、知識の構築を行う想定で科目を構成している。しかし、時間割の関係上、体系的

に科目を取得することができない学生や図書館司書資格を希望しない単位だけを取得する学生は、知識の構築をしないまま授業を受講している。そのため、内容が理解できない反応を示し、効果を見ることができなかった。

このように、科目により様々な教材を活用してきたが、1年間が終わり、教材活用の振り返りを行うと効果を示せる科目の教材と示せない科目の教材が明確になった。

5. 教材活用の今後の課題

今年度授業を行う中で、様々な教材活用を行ってきた。効果が出てきたものは、継続的な活用と開発を試みるとともに、効果が上がらないものについては新たな教材を導入し、活用したいと考える。

また、次年度に向けた新たな課題も見えてきた。

- ・ 学習能力の個人差にあわせた教材
- ・ 到達目標（知識と技術の習得）に近づける教材
- ・ 同科目、別科目において複数回使用できる教材
- ・ 短時間（効率）で修得できる教材
- ・ 関心を引く、魅力的な教材

このような課題を解決しながら、より効果的な授業ができるように、2年目も試行錯誤を繰り返しながら教材をより効果的に活用したいと考える。



矢崎美香氏

ワークショップの概要

ワークショップでは、最初に図書館情報学教育部会幹事の大谷康晴氏（日本女子大学）より、今回、中心的に議論する教材についての説明ののち、ワークショップの進め方について説明があった。その後、AからFの6班に分かれて、各自、授業で活用している教材、それによる授業の進め方について、話し合った。今回は、事前にワークシートを配布し、教材を使用する科目、その使用法などを書いてきてもらっていたことから、それをもとに発表し合った。その後、各班で一番興味深い事例を発表した。



ワークショップの様子（1）

以下、各班から発表のあった事例である。

- ・「情報資源組織論」において、日本地図を描きながら海洋区分、地理区分などについて理解を深めている。
- ・「学校図書館メディアの構成」において、学習指導要領の学習、選書ツアー、選択した資料の分類記号付与・目録作成、ポップ制作など一連の活動を行う。
- ・「情報資源組織論」の授業において、デューイのラップの動画を学生に見せ、分類に興味を持ってもらっている。
- ・レファレンスカウンターでの図書館職員と利用者のやり取りをパワーポイントで作成させることで、インタビューの難しさ等の理解を深めている。
- ・「図書館情報技術論」で、実際の電子書籍を見せたり、ITホワイトボックスなどの映像資料で理解を深めている。

・初年次の導入教育における学習支援施設紹介で、ニコニコ動画の実況ムービー形式で図書館利用案内を作成し、見させている。

今回、授業で使用する教材や実地体験について議論をしたが、その中で他の教員の授業の工夫を知ることができたことは大きな成果になった。今後の授業実践に活かしてもらいたい。

なお、各班で参加者が発表した教材、実地体験の内容については、科目ごとに次ページの表（「表 科目ごとの教材・実地体験」）にまとめた。



ワークショップの様子（2）



グループごとの発表の様子

表 科目ごとの教材・実地体験

科目名	教材・実地体験の別	教材・実地体験の内容
生涯学習概論	教材	ビデオ「老化に挑む」
	実地体験	公民館見学
図書館概論	実地体験	国立国会図書館見学
	教材	リビングライブラリーのビデオ
	教材	紙との違い（パピルス・羊皮紙）を知り「保存」とつなげる。デジタル化した時の質感。
	実地体験	裏方見学（受け入れから整理まで）。
	教材	新聞記事・雑誌・ネット・図書・ビデオ
	実地体験	図書館見学ツアー、情報検索ガイダンス
	教材	図書館体操をやってみよう・・・
図書館情報技術論	教材	パソコン内部の装置、ハードディスク内部
	教材	著作権切れの図書館関連著作の電子書籍を制作、ビデオITホワイトボックス
	教材	クロスアップ現代などのニュース素材（セキュリテイ）
	教材	電子書籍端末、DVD、新聞記事、データベース
	教材	デスクトップPCの分解と組み立てを見せる
図書館制度・経営論	教材	新聞記事、データベース、写真（国内外の図書館）
	教材	明治大学DVD（いろいろ使える）
	実地体験	特徴的な図書館の見学
	教材	新聞記事の利用
図書館サービス概論	教材	点訳本
	教材	文部科学省の実践事例集
	教材	明治大学DVD（新しいものがほしい）
	教材	NHKの国立国会図書館に関する番組で国立国会図書館を知る
情報サービス論	教材	YouTube、図書館利用案内、パスファインダーなど、ラーニングコモンズ（国内外）、レファレンス協同データベース
	実地体験	図書館訪問（大学、公共）
	教材	図書館の達人DVD
情報サービス演習	実地体験	図書館の使い方をグループで映像化
	教材	冊子体のシソーラス、レファレンス物語（問答をPPT20枚程度で記録）
児童サービス論	教材	絵本
	実地体験	読み聞かせ
	教材	絵本、パペット
図書館情報資源概論	実地体験	アニメーションの実践をグループで共有
	教材	電子ジャーナル・ブック、データベース、学生の情報リテラシーも兼ねる
	教材	羊皮紙、パピルスの実物
	教材	キンドル、iPad→図書館でどうつかえるか、点字資料、マイクロフィッシュ
	教材	パピルス（植木鉢）
	教材	バリアフリー出版のもの。LLブック、展示絵本
情報資源組織論	教材	LP、LD、FD、MOなど実物を見せる
	教材	目録カード、
	実地体験	地図（ワークシート）を作る、地理区分
	教材	デュエ十進分類法のラップ動画（YouTube）、タイプライター・カード
	教材	図書以外の現物資料（巻物など）
情報資源組織演習	実地体験	漢籍実物で四庫分類の学習
図書館基礎特論	実地体験	わかりやすい図書でカード目録作成・目録データ作成
図書・図書館史	教材	TVドラマを見せて図書館を考える
	教材	パピルス、42行聖書レプリカ、絵葉書（国内外の図書館）、和本、酸性紙、活字、印章のレプリカ
図書館施設論	教材	実物（粘土板、パピルス、羊皮紙、羽ペン、印章、和紙）
図書館サービス特論	教材	写真（国内外の図書館）、YouTube（自動書庫など）、DVD（明治大学）
図書館情報資源特論	実地体験	ロールプレイ（レファレンス）
図書館施設論	実地体験	和本作り（実際に作ってみる）
学校経営と学校図書館	教材	現場の図書館でとってきた映像
学校図書館メディアの構成	教材	オーストラリアの学校図書館動画（YouTube）、クリッカー
	実地体験	DVD（明治大学）、雑誌記事「学校の図書館」、ビデオ「司書教諭の役割」
読書と豊かな人間性	実地体験	学習指導要領を学習後、授業で使用する図書の選書ツアーを行い、その図書の目録・分類をとるとともにポップを制作する
全科目	教材	読み聞かせ、ブックトークのビデオ記録（評価及び次年度の教材）
	教材	図書館で授業、資料やインターネットを利用、貴重書、著作権に関する利用者に対するリテラシー教育
ゼミ	教材	ニコニコ動画（自作）で図書館利用案内
	実地体験	Googleアラートで図書館ニュースを調べさせる

～参加者の感想～

教材体験と実践報告が参加者を活性化する

庄 ゆかり

(広島文教女子大学)

授業の中で用いる教材や資料について新しい情報が必要だと思っていたところ、福岡でまさにそのテーマの研究集会が開かれると知り、大喜びで参加した。

吉田氏の基調講演では、実際にクリッカーを使用する授業の実演があった。クリッカーを用いた授業実践発表は何度か聞き、クリッカーについて説明を受けたことはあったが、学生の立場に立って連続する質問へ応じたのは初めてだった。最初の1～2問は「正解を出したい、みな意見を知りたい」という純粋な気持ちだったが、回数を重ねるにつれ「変わった回答をしたい」「これを選択する人は他にいるだろうか」などと、気持ちが変化していった。クリッカーを使用する授業では、学生も同じような気持ちになるのかもしれない。質問の種類や順序に工夫することで、クリッカーや授業内で行うアンケートなどがより有効に活用できるかもしれないという気付きを得た。

実際にやってみることによる学びという点では、矢崎氏の発表にも共通する部分がある。すぐれた教材や教育方法を授

業に取り入れたいと考えるが、学生の状況や教育環境、またこちらの経験不足などにより、すべてを授業で実現できるとは限らない。より良いものをどう工夫して取り入れていくか、また、新しい試みが有効であったかどうかは、それぞれの環境の中で教員自身が試行錯誤しながら進んでいくしかないのである。

ワークショップで持ち寄られた映像・実物教材には、制限のある環境の中で、学生の経験をより幅広いものにしたいという各教員の想いと工夫が現れていた。多様な教材とその使い方が紹介されたが、私のグループで印象に残ったのは、TV番組の利用と、新聞記事である。忙しい毎日の中で、興味深いTV番組をチェックし録画あるいは入手するのは大変である。また、日々新聞に目を通し、必要な記事を保存するのはかなりの労力を、しかも継続的に必要とする。このような、なるべく魅力的で新しい情報を提供しようとする教員の意欲は、授業を受ける学生にいい影響を与えないはずがない。授業を、そして学習するという経験をよりよくするのは、すばらしい最新式の教材ではなく、時間を惜しまず授業の向上を図る教員の努力によるものではないか。

新年度を前に、学生へ向き合う気持ちをリフレッシュする、充実した研究集会であった。

参加者のアンケートから

回収できたアンケート

18

質問1 部会員かどうか

図書館情報学教育部会会員	10
上記以外の日本図書館協会会員	6
日本図書館協会非会員	8

質問3 今回のプログラム

適切だった	22
適切でなかった	1
どちらともいえない	1

質問2 テーマの設定

適切だった	23
適切でなかった	0
どちらともいえない	1

質問4 今回の内容

適切だった	23
適切でなかった	0
どちらともいえない	1

質問5 ご意見・ご指摘

- ・この内容だと、基調講演は必要ない。また、ワークショップももう少し目的を説明した方がよい。
- ・FD, しかも図書館情報学をテーマにしたものがあればいいなあと思っていたので、とても興味深く楽しく参加したが、テーマが広いように思う。授業科目をしぼってみてはどうか。時間が足りなかった。
- ・大変楽しく、参考になるお話を聞けて、大変助かりました。(4月から早速使います)
- ・初参加でしたが皆同様の問題を抱えていることが分かった。
- ・教員ではないが、とても参考になるものを発見できた。
- ・司書課程の授業で学ぶ内容を楽しく学生に伝える多様なアイデアがあることが興味深かった。特に次第の授業の発想がユニークだった。
- ・基調講演が「本題」とはややズレた点が多かったのが残念(クラッカーの体験は良かったが)。いろいろな実践例について時間面などでの制約があったので、部会のウェブサイトにwiki ページを設置し、参加者が実践例を書き込むといっ

た仕組みを構築できないか。

- ・図書館職員なので、場違いかと思って参加したが、先生方がどのようなものを教材にしているかが分かって面白かった。図書館側から提供できるものもあると感じた。
- ・ワークショップにて他の教員の試行錯誤した教材づくりについて聞く機会があり、大変参考になった。
- ・教材の情報交換をWS でできたのは良かった。
- ・一点、ワークシートが科目別になっており、各科目共通している項目が書きにくかった。

質問6 今後の活動に対するご意見

- ・「学生の思考を引き出すレポート課題」といった点についても共有・議論の機会があればと思う。また、個人的には「図書館情報技術論」について各大学でどのような授業を行っているか(自分の授業がズレていないか)大変気になっている。これについても共有・議論の機会があればありがたい。
- ・各大学に図書館専門の教員が少なく、また同じ地方にも少ない中で、このような集会はとてもありがたく思う。

学校図書館職員問題検討会報告書(案)への意見募集

2014年の学校図書館法改正により、学校司書が法律に明記され、附則において、その資格、養成の在り方等について検討を行うとうたわれました。

これらの状況から、日本図書館協会は2014年4月に図書館情報学教育部会および学校図書館部会の委員推薦に基づき学校図書館職員問題検討会を設置し、学校司書の資格・養成の在り方を含めた学校図書館の職員問題について検討してきました。このほど2年にわたる協議を経てようやく別添の報告書(案)を取りまとめました。

この案の意見募集を行っております。ぜひ部会員のみなさまもご意見をお寄せいただければと思います。報告書は以下URLにて公開されております。

http://www.jla.or.jp/home/news_list/tabid/83/Default.aspx?itemid=2925

ご意見は次の要領で募集しております。

【意見募集期間】2016年6月15日(水)～7月15日(金)

【字数】1000字以内

意見提出者の氏名、所属、メールアドレスをご記入の上、info@jla.or.jpまでお送りください。

編集担当 〒206-8540 東京都多摩市唐木田2-7-1 大妻女子大学社会情報学部 松本直樹

Tel. 042-339-0092

E-mail : matsumoton@otsuma.ac.jp